

人間を救うのは、人間だ。

講習会のお知らせ

■救急法基礎講習：1日コース

心肺蘇生やAEDを用いた電気ショックなどが学べます。

3/20(木・祝)	日赤富山県支部	9:00~16:30
2/3(月)	県総合体育センター	9:00~16:30

■救急法救急員養成講習：2日間コース

急病の手当、けがの手当、搬送などが学べます。

3/22(土)~23(日)	日赤富山県支部	9:00~16:30
2/5(水)~6(木)	県総合体育センター	9:00~16:30

■幼児安全法支援員養成講習：2日間コース

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気への対応などが学べます。

3/1(土)~2(日)	日赤富山県支部	9:00~17:00
-------------	---------	------------

指導員派遣 原則無料

- 電話で、開催希望日時・希望内容・受講者人数・会場をお知らせ下さい。
- 派遣は、受講者が10名以上の場合とさせていただきます。
- 指導員の手配や資材の数に限りがあるため、ご希望に添えない場合があります。



受講のお申し込みやお問い合わせ先
 日本赤十字社富山県支部 事業推進課
 TEL 076-451-7878
<https://www.jrc.or.jp/chapter/toyama/study/>
 (ホームページから申し込みができます)

街頭献血のお知らせ

★お昼時間は受付をお休みします。
★日程は都合により変更することがあります。

2月	1日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	2日(日)	イオンモールとなみ アル・プラザ小杉	9:00~12:00	13:20~16:00
	8日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	9日(日)	ファボーレ アップルヒル		
	15日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	16日(日)	ファボーレ		
	22日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	23日(日)	ファボーレ		

3月	1日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	2日(日)	ファボーレ		
	9日(日)	イオンモール高岡 アピタ富山東店	9:30~12:00	13:15~16:00
	15日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
16日(日)	ファボーレ			
	22日(土)	イオンモール高岡	10:00~12:00	13:15~16:30
	23日(日)	ファボーレ		
	29日(土)	イオンモール高岡	9:30~16:00	
	30日(日)	ハッピータウン氷見店		

◆上記以外の献血会場

マリエ献血ルーム
 富山市桜町1-1-61 マリエとやま6F TEL 076-445-4500
 受付時間は、成分献血10:00~12:00 14:00~17:30
 全血献血10:00~12:30 14:00~18:00



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字とやま

大雨災害支援へ 能登半島で医療救護活動



自衛隊ヘリでの避難者に健康状態を確認する富山県支部救護班 (9月26日)

元日の能登半島地震からの復興もままならないうちに発生した、令和6年9月21日の能登半島大雨災害。

被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

大雨災害発生から5日目となる9月26日、孤立集落解消のため、自衛隊による避難移送が実施され、各集落から避難を希望した38名が輪島市の航空自衛隊分屯基地に到着しました。

ヘリ移送は6回に分け、各機に避難者5~7人が搭乗。着陸後、ヘリポートから2~300メートル離れた建物横で、日赤富山県支部の救護班によるメディカルチェックを行いました。

5日間にも及ぶ孤立生活でしたが、避難者の方々の健康状態は概ね良好で、医師のチェックを受けた後は、基地の横にある輪島中学校へ市が用意したバスで移動し、そこからはそれぞれの避難先(避難所、家族宅等)で避難生活を送るということです。

皆さんは口々に「1月と今回で2回もヘリで助けてもらいました。ありがとうございます。」と、感謝の気持ちを述べていました。

日本赤十字社富山県支部は今後も、被災者に寄り添う活動を続けてまいります。

令和6年能登半島大雨災害義援金実績	7,329,239円 (令和6年11月30日現在)
令和6年能登半島地震災害義援金(富山県被災者支援分)実績	2,077,322,222円 (令和6年11月30日現在)
令和6年能登半島地震災害義援金(石川県、新潟県、福井県支援分)実績	41,729,812,933円 (令和6年11月21日現在)

ご協力ありがとうございました。いただいたご支援は、被災者の方々へ全額、順次配分されます。

富山県赤十字血液センター

バレンタイン献血 キャンペーンを実施します!

富山駅前のマリエとやま6階にあるマリエ献血ルームでは、令和7年2月10日(月)~2月14日(金)まで、バレンタイン献血キャンペーンを実施します。献血にご協力いただいた方へ【お菓子】をプレゼントいたします。

冬場の寒い季節は、献血される方が減少する時期です。

特に平日は、献血される方が少なくなります。

継続的な献血へのご協力をお願いします。

予約はこちら→



富山赤十字病院

内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチXi」導入

富山赤十字病院では、令和6年11月から内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を用いた手術を開始いたしました。

ダ・ヴィンチ (da Vinci Surgical System) は小さな創 (きず) から患者さんの体内に内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、医師は離れた場所から 3D モニターを通して術野を見ながら、実際にその手で鉗子 (かんし・手術用の器具) を動かしているような感覚で手術を行うことができます。

今後も富山赤十字病院は、人道・博愛の赤十字精神にもとづく良質で安全な医療を提供してまいります。



富山県立乳児院

短期入所生活援助事業 (ショートステイ) …… 垂直訓練を実施しました ……

乳児院では、「子どもたち」を守るため、火災や災害訓練を毎月行っています。

今回は、富山市に大雨洪水警報が発令されたことを想定し、子どもたち全員を2階の会議室に避難する、「垂直訓練」を実施しました。

職員も子どもたちも、真剣に取り組むことができました。



みなさんは、「ショートステイ」というサービスをご存知でしょうか？

対象は、2歳未満のお子さんで1泊2日から最長で6泊7日までお預かりいたします。ご両親の急な入院や仕事の都合、冠婚葬祭、また、毎日の育児で疲れて「すこし休みたい」と思った時にご利用頂けます。

ご利用を希望される方は、お住いの市役所や役場にお問い合わせください。



日本赤十字社創立150周年プロジェクト 2025年大阪・関西万博に出展します！

日本赤十字社は、1877(明治10)年の西南戦争のさなかに設立された「博愛社」という救護団体が前身です。

2025年4月13日から10月13日までの184日間にわたり、大阪・夢洲を会場に開催される大阪・関西万博。日本赤十字社は、2027年5月1日の150周年を前に「国際赤十字・赤新月運動館」としてパビリオンを出展します。

「人間を救うのは、人間だ。～The Power of Humanity～」をコンセプトに、世界の人道危機、そこに立ち向かい、立ち上がる人々のヒューマンストーリーを通して赤十字の使命と人間のチカラを感じるパビリオンです。

万博と赤十字の関わりは古く、1867年のパリ万博にまでさかのぼります。現在の赤十字国際委員会の誕生から4年後に開催されたパリ万博は、世界に赤十字思想を発信する初の国際的な舞台となりました。のちに日赤の創設者となった佐野常民は、「敵味方の区別なく救う」ための画期的な国際条約や仕組みに衝撃を受け、これこそが文明開化の証とまで述べています。

万博と赤十字は、今も昔も「救いたい」という思いでつながっているのです。



日本赤十字社富山県支部

広がれ防災教育の輪

9月21日・22日の2日間にかけて、赤十字救急法のボランティア指導員等を対象として、赤十字防災教育事業指導者養成研修を開催しました。この研修は、地域における「自助」と「共助」の力を向上させるための『赤十字防災セミナー』を企画・運営できる指導者の養成を目的としています。10月26日と11月2日には、奉仕団向けの同研修を開催。この2回で、県内における『赤十字防災セミナー』の指導者が51人養成されました。

また、11月14日には、青少年赤十字活動に熱心に取り

組まれている射水市立射北中学校で、全校生徒302人と保護者約50人が、自分たちが住む地域別の40グループに分かれて、赤十字防災セミナーの一つ「災害図上訓練(DIG)」を体験しました。

日本赤十字社富山県支部の講師から、能登半島地震を振り返りながら、地図の上に一人ひとりの防災意識をイメージして掘り下げていくための講話を受け、40グループは、生徒会メンバーの進行のもと、自分たちの地域の危険や防災力、被害を減らすための気づきを得ていました。



互いに「災害への備え」をプレゼンする講習指導員



「ひなんじゃたいけん」に取り組む奉仕団員



射北中学校での「DIG」の様子

DIGとは・・・Disaster (災害) Imagination (想像) Game (ゲーム) の略称。地域の防災マップの作成を通じて、災害時の危険箇所や備えについて把握・理解し、防災意識を高めることを目的としています。